

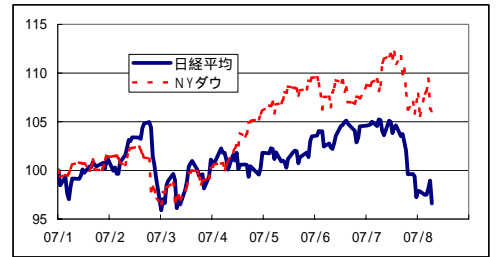
## 投資の基礎講座 「株の値動き」

株式相場の値下りのニュースが連日伝えられています。右の図は日経平均株価とニューヨークダウ平均株価をそれぞれ年初を100としてグラフ化したものです。

4月上旬までは日米の株価はほとんど同じような動きをしていました。その後NYダウは大きく上昇しました。しかし、日経平均株価はそれほど上がらず、最近話題になっている米国のサブプライムローン問題をきっかけとする下げの場面では、問題発生米国株より日本のほうが大きく値下がりしています。

世界の株価の連動率が高くなっているのは、国際分散投資が進んだことや年金などが市場均なみの運用(いわゆるインデックス運用)をしていることが大きな要因といわれています。「お金に国境はない」といわれるほど証券市場は各国の動きが相互に関連しています。しかし、一方でそれぞれの国の成長率、産業の状況は異なります。当然株価も異なる動きをするはずですが、

大きく下げている日本の株がさらに下がるのか、それとも米国(その他の国)の株価が追いついてくるのか、あるいは全く異なる動きをするのか予想を立ててみましょう。



## 先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,914.46円	17,170.60円	16,764.09円	16,764.09円
TOPIX	1,668.04	1,683.81	1,633.93	1,633.93
東証1部単純平均	446.58円	446.58円	430.88円	430.88円
東証1部売買高	1,992,920千株	3,810,440千株	1,992,920千株	3,354,130千株
ニューヨークダウ平均	13,468.78ドル	13,657.86ドル	13,239.54ドル	13,239.54ドル
NASDAQ	2,547.33	2,612.98	2,544.89	2,544.89
10年国債利回り	1.750%	1.780%	1.715%	1.715%
5年国債利回り	1.300%	1.390%	1.285%	1.285%
無担保コールO/N	0.486%	0.526%	0.486%	0.526%
ドル/円相場	117.71円	119.19円	117.71円	118.07円
ユーロ/円相場	162.61円	163.96円	161.60円	161.60円
1ユーロ=ドル	1.3812ドル	1.3812ドル	1.3686ドル	1.3686ドル
豪ドル/円相場	100.61円	103.42円	100.06円	100.06円
米国FFレート	5.2500%	5.4375%	5.0000%	5.0000%
米国10年国債利回り	4.74%	4.87%	4.74%	4.80%
ドイツ10年国債利回り	4.32%	4.42%	4.32%	4.35%

## スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成19年8月13日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%

## GDP(国内総生産)平成19年4-6月期(1次速報)

8月13日に内閣府から4-6月期のGDP(国内総生産)の1次速報が発表されます。

市場の事前予測の平均値は年率換算でプラス1%(実質ベース)で、1-3月期の3.3%から大きく減少する見通しです。8月22日・23日に開催される日銀金融政策決定会合で利上げが行われるか否かが話題となっていますが、このところの異常ともいえる市場の乱高下に加え、GDPの伸びが低下するとすれば利上げが遠のく可能性もあります。

国内需要の項目では「個人消費」「民間設備投資」「民間在庫品増加」が注目です。個人消費が順調に伸びているのか、好調な企業業績に支えられ設備投資の伸びがどうなのか、売れ行き鈍化で在庫品が増加していないかを観察してみましょう。また、この間の円安で輸出が伸びているのか、輸入が減少していないか(「輸出-輸入」が増えるとGDPの増加要因)も注意が必要です。

## 今週の株式相場見通し

先週の株式市場は、前週末の米株急落を受け大幅安で始まりました。その後NYダウが3日続伸したことやファンドの精算とも言われた買戻しが入り、9日には大きく値上がりしましたが、米国株の急落を受け週末には5ヶ月ぶりに日経平均株価が16800円を下回りました。

今週の株式相場は、海外株式相場に下げ止まり感が出てこないことが懸念ですが、日米欧の中央銀行が資金供給を行い信用不安の解消に努めていることから、サブプライム問題は小康状態を保ち、市場も落ち着くことが期待されます。また、これまでの下げで割安感が出てきた銘柄も増えてきており、日経平均株価で16500円割れがあったとしても、リバウンドすると思われます。

しかし、株価の上昇トレンドは一旦終息しており、戻りも限られるものと思われるます。

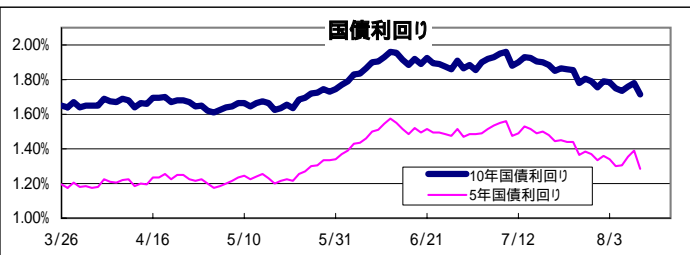
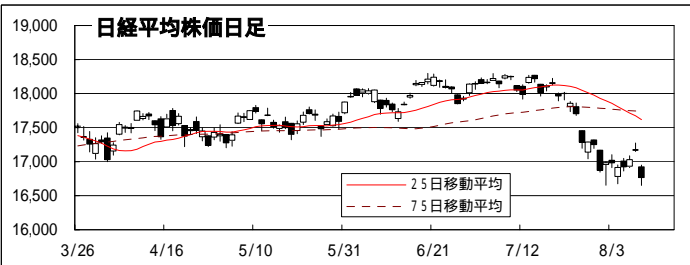
## 今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、サブプライムローン問題が尾を引き、リスク回避の動きが強まり債券相場は堅調な展開となりました。10日の10年国債利回りは一時1.705%まで利回りが低下しました。

今週の債券相場は、引き続き「質への逃避」の動きが続き国債を中心に債券相場は堅調な展開が予想されます。株や資源から債券への資金シフトが続く10年国債利回り1.65%程度まで低下する場面もありそうです。

先週の為替相場は、株や債券相場に振られ値動きの荒い展開となりました。値動きの荒さを嫌気し、「円キャリートレード」の巻き戻しから他通貨に対し円が相対的に強含みの動きとなりました。

今週の為替相場は、国内金利の低下が進むことから円をさらに買い進むことは難しくなり、円高は一服するものと思えます。しかし、円キャリートレードの巻き戻しの動きが継続することから円が大きく売られることも無く、1ドル=117円30銭~118円50銭程度での推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。